

## ワールドカフェに関する参考資料

### ワールドカフェとは？

ワールドカフェとは、その名のとおり「カフェ(喫茶店)」のようなリラックスした雰囲気の中で、5～6人程度の少人数に分かれたテーブルで、自由な対話を行い、決められた時間で他のテーブルのメンバーを入れ替えてさらに対話を続けることを繰り返すことにより、参加した全員の意見や知識を集めることが出来る対話の手法の一つです。

### ワールドカフェの効果は？

#### ①話しやすさを生み出す

ワールドカフェでは、形式的な会議と違い、リラックスした雰囲気を進めるため、参加者の緊張感を和らげてくれます。また、少人数のグループで対話をするため、大勢の前で話すよりも話しやすい利点もあります。これは、相手との距離も近く、耳を傾けてもらいやすく、緊張感も薄いからです。これらの要素は、参加者が口を開きやすくし、気楽な発言を導きます。

#### ②発言の機会が増える

ワールドカフェでは、少人数で一つのテーブルを構成します。そのため、一人一人が発言する機会を多く得ることが出来ます。全体の人数が増えても、テーブルの数が増えるだけでこの効果が薄まることはありません。

#### ③参加者全員の意見が集まる

「その場にいる参加者全員で対話をしている」という感覚を味わえます。制限時間ごとにテーブルのメンバーを交代することにより、他のテーブルで話し合った内容を持った新しいメンバーを通じて、多くの人の意見がテーブルに集まってきます。メンバー交代を繰り返すごとにこの効果は拡大します。テーブルでは少人数で話しているにも関わらず、多くの人との意見交換や知識の共有ができるのです。

#### ④参加意識が高まり満足感が得られる

参加者全員が聞く一方ではなく、自分の経験や意見をその場で共有する機会を得られることで満足感が高まります。また、自分の発言の機会が増えることで参加意識も高まり、テーマに対する興味や関心がより深まります。その結果、参加したことに対する満足感も高まり、その後の行動への意欲も高まることが期待されます。

#### ⑤人がつながる

ワールドカフェに対話では、他の参加者に同一性を見い出したり、共感を得たりすることが出来ます。また、一テーブルのが少人数のため、お互いの話をよく聞く姿勢になります。こういった状況は参加者同士が親しみを感じたり、お互いに信頼感を感じたりする機会をもたらします。

※参考: ウェブサイト「ワールド・カフェ・ネット」より

## ワールドカフェの進め方（案）

1. 高校生、条例検討会議委員を交えた、6～7人のグループを5つ作り、各テーブルに進行役、書記を設ける。
2. 決められたテーマについて、制限時間内でテーブルごとにディスカッションを行う。進行役は、発言者が偏らないように注意しながらグループディスカッションの進行を行ない、書記は話し合いの要点をまとめる。
3. 制限時間が終了したら、進行役、書記をテーブルに残し、その他のメンバーは、別のテーブルに席を移し、新しいメンバーによるグループを5つ構成する。  
※高校生と条例検討会議委員の人数のバランスを取る必要有り。
4. 書記は、新しいメンバーに先ほどのディスカッションの要点を報告し、進行役は新しいメンバーによるグループディスカッションを進行する。グループメンバーは、前のグループでのディスカッションの内容も踏まえて発言をする。書記は、話し合いの要点をまとめる。
5. 制限時間が終了したら、3と同様に、進行役、書記をテーブルに残し、その他のメンバーは、別のテーブルに席を移し、新しいメンバーによるグループを5つ構成する。  
※高校生と条例検討会議委員の人数のバランスを取る必要有り。
6. 書記は、4と同様に、新しいメンバーに先ほどのディスカッションの要点を報告し、進行役は新しいメンバーによるグループディスカッションを進行する。グループメンバーは、前のグループでのディスカッションの内容も踏まえて発言をする。書記は、話し合いの要点をまとめる。
7. 書記は、三回のグループディスカッションの内容をまとめて、進行役に報告する。ファシリテーターの進行により、各テーブルの進行役は、テーブルで話し合われた内容について、簡潔に（2分程度）まとめて参加者全員に向けて発表する。

